

派遣従業員  
育児・介護休業規程

株式会社グレイス

# 派遣従業員育児・介護休業規程

## 第1章 目的

### (目的)

第1条 本規程は、株式会社グレイス（以下「会社」という。）の派遣従業員の育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇、育児のための所定外労働の免除、育児・介護のための時間外労働及び深夜業の制限並びに育児・介護短時間勤務等に関する取扱いについて定めるものである。

## 第2章 育児休業制度

### (育児休業の対象者)

第2条 育児のために休業することを希望する派遣従業員（日雇従業員を除く）であって、1歳に満たない子と同居し、養育する者は、申出時点において、次のいずれにも該当する者に限り育児休業をすることができる。

- ①入社1年以上であること
  - ②子が1歳に達する日を超えて雇用関係が継続することが見込まれること
  - ③子が1歳に達する日から1年を経過する日までに労働契約期間が満了し、更新されないことが明らかでないこと
- 2 前項によらず、労使協定により除外された次の派遣従業員からの休業の申出は拒むことができる。
- ①入社1年未満の派遣従業員
  - ②申出の日から1年以内に雇用関係が終了することが明らかな派遣従業員
  - ③1週間の所定労働日数が2日以下の派遣従業員
- 3 配偶者が派遣従業員と同じ日から又は派遣従業員より先に育児休業をしている場合、派遣従業員は、子が1歳2か月に達するまでの間で、出生日以後の産前・産後休業期間と育児休業期間との合計が1年を限度として、育児休業をすることができる。
- 4 次のいずれにも該当する派遣従業員は、子が1歳6か月に達するまでの間で必要な日数について育児休業をすることができる。なお、育児休業を開始しようとする日は、原則として子の1歳の誕生日に限るものとする。
- ①派遣従業員又は配偶者が原則として子の1歳の誕生日の前日に育児休業をしていること
  - ②次のいずれかの事情があること

- イ 保育所に入所を希望しているが、入所できない場合
- ロ 派遣従業員の配偶者であって育児休業の対象となる子の親であり、1歳以降育児に当たる予定であった者が、死亡、負傷、疾病等の事情により子を養育することが困難になった場合

### (育児休業の申出の手続等)

第3条 育児休業をすることを希望する派遣従業員は、原則として育児休業を開始しようとする日（以下「育児休業開始予定日」という。）の1か月前（第2条第4項に基づく1歳を超える休業の場合は、2週間前）までに育児休業申出書を会社に提出することにより申し出るものとする。なお、育児休業中の派遣従業員が労働契約を更新するにあたり、引き続き休業を希望する場合には、更新された労働契約期間の初日を育児休業開始予定日として、育児休業申出書により再度の申出を行うものとする。

2 申出は、次のいずれかに該当する場合を除き、一子につき1回限りとし、双子以上の場合もこれを一子とみなす。ただし、産後休業をしていない派遣従業員が、子の誕生日又は出産予定日のいずれか遅い方から8週間以内にした最初の育児休業については、1回の申出にカウントしない。

①第2条第1項に基づく休業をした者が同条第4項に基づく休業の申出をしようとする場合又は前項後段の申出をしようとする場合

②配偶者の死亡等特別の事情がある場合

3 会社は、育児休業申出書を受け取るにあたり、必要最小限度の各種証明書の提出を求めることがある。

4 育児休業申出書が提出されたときは、会社は速やかに当該育児休業申出書を提出した者（以下この章において「申出者」という。）に対し、育児休業取扱通知書を交付する。

5 申出の日後に申出に係る子が出生したときは、申出者は、出生後2週間以内に会社に育児休業対象児出生届を提出しなければならない。

### (育児休業の申出の撤回等)

第4条 申出者は、育児休業開始予定日の前日までは、育児休業申出撤回届を会社に提出することにより、育児休業の申出を撤回することができる。

2 育児休業申出撤回届が提出されたときは、会社は速やかに当該育児休業申出撤回届を提出した者に対し、育児休業取扱通知書を交付する。

3 育児休業の申出を撤回した者は、特別の事情がない限り同一の子については再度申出をすることができない。ただし、第2条第1項に基づく休業の申出を撤回した者であっても、同条第4項に基づく休業の申出をすることができ

る。

- 4 育児休業開始予定日の前日までに、子の死亡等により申出者が休業申出に係る子を養育しないこととなった場合には、育児休業の申出はされなかったものとみなす。この場合において、申出者は、原則として当該事由が発生した日に、会社はその旨を通知しなければならない。

### (育児休業の期間等)

第5条 育児休業の期間は、原則として、子が1歳に達するまで（第2条第2項及び第4項に基づく休業の場合は、それぞれ定められた時期まで）を限度として育児休業申出書に記載された期間とする。

- 2 前項にかかわらず、会社は、育児・介護休業法の定めるところにより育児休業開始予定日の指定を行うことができる。
- 3 派遣従業員は、育児休業期間変更申出書により会社に、育児休業開始予定日の1週間前までに申し出ることにより、育児休業開始予定日の繰り上げ変更を、また、育児休業を終了しようとする日（以下「育児休業終了予定日」という。）の1か月前（第2条第4項に基づく休業をしている場合は、2週間前）までに申し出ることにより、育児休業終了予定日の繰り下げ変更を行うことができる。

育児休業開始予定日の繰り上げ変更及び育児休業終了予定日の繰り下げ変更とも、原則として1回に限り行うことができるが、第2条第4項に基づく休業の場合には、同条第1項に基づく休業とは別に、子が1歳から1歳6か月に達するまでの期間内で、一回、育児休業終了予定日の繰り下げ変更を行うことができる。

- 4 育児休業期間変更申出書が提出されたときは、会社は速やかに当該育児休業期間変更申出書を提出した者に対し、育児休業取扱通知書を交付する。
- 5 次の各号に掲げるいずれかの事由が生じた場合には、育児休業は終了するものとし、当該育児休業の終了日は当該各号に掲げる日とする。

①子の死亡等育児休業に係る子を養育しないこととなった場合

・・・当該事由が発生した日（なお、この場合において本人が出勤する日は、事由発生の日から2週間以内であって、会社と本人が話し合いの上決定した日とする。）

②育児休業に係る子が1歳に達した場合等

・・・子が1歳に達した日（第2条第3項に基づく休業の場合を除く。同条第4項に基づく休業の場合は、子が1歳6か月に達した日）

- ③申出者について、産前産後休業、介護休業又は新たな育児休業期間が始まった場合

- ・・・産前産後休業、介護休業又は新たな育児休業の開始日の前日
  - ④第2条第3項に基づく休業において、誕生日以後の産前・産後休業期間と育児休業期間との合計が1年に達した場合
    - ・・・当該1年に達した日
- 6 前項①の事由が生じた場合には、申出者は原則として当該事由が生じた日に会社にその旨を通知しなければならない。

### 第3章 介護休業制度

#### (介護休業の対象者)

第6条 要介護状態にある家族を介護する派遣従業員（日雇従業員を除く）は、申出時点において、次のいずれにも該当する者に限り介護休業をすることができる。

- ①入社1年以上であること
  - ②介護休業を開始しようとする日（以下「介護休業開始予定日」という。）から93日を経過する日（93日経過日）を超えて雇用関係が継続することが見込まれること
  - ③93日経過日から1年を経過する日までに労働契約期間が満了し、更新されないことが明らかでないこと
- 2 前項にかかわらず、労使協定により除外された次の派遣従業員からの休業の申出は拒むことができる。
- ① 入社1年未満の派遣従業員
  - ② 申出の日から93日以内に雇用関係が終了することが明らかな派遣従業員
  - ③ 1週間の所定労働日数が2日以下の派遣従業員
- 3 この要介護状態にある家族とは、負傷、疾病又は身体上若しくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態にある次の者をいう。
- ①配偶者
  - ②父母
  - ③子
  - ④配偶者の父母
  - ⑤祖父母、兄弟姉妹又は孫であって派遣従業員が同居し、かつ、扶養している者
  - ⑥上記以外の家族で会社が認めた者

### (介護休業の申出の手続等)

- 第 7 条 介護休業をすることを希望する派遣従業員は、原則として介護休業開始予定日の 2 週間前までに、介護休業申出書を会社に提出することにより申し出るものとする。なお、介護休業中の派遣従業員が労働契約を更新するにあたり、引き続き休業を希望する場合には、更新された労働契約期間の初日を介護休業開始予定日として、介護休業申出書により再度の申出を行うものとする。
- 2 申出は、特別な事情がない限り、対象家族 1 人につき 1 要介護状態ごとに 1 回とする。ただし、前項後段の申出をしようとする場合にあっては、この限りでない。
  - 3 会社は、介護休業申出書を受け取るにあたり、必要最小限度の各種証明書の提出を求めることがある。
  - 4 介護休業申出書が提出されたときは、会社は速やかに当該介護休業申出書を提出した者（以下この章において「申出者」という。）に対し、介護休業取扱通知書を交付する。

### (介護休業の申出の撤回等)

- 第 8 条 申出者は、介護休業開始予定日の前日までは、介護休業申出撤回届を会社に提出することにより、介護休業の申出を撤回することができる。
- 2 介護休業申出撤回届が提出されたときは、会社は速やかに当該介護休業申出撤回届を提出した者に対し、介護休業取扱通知書を交付する。
  - 3 介護休業の申出を撤回した者について、同一対象家族の同一要介護状態に係る再度の申出は原則として 1 回とし、特段の事情がある場合について会社がこれを適当と認めた場合には、1 回を超えて申し出ることができるものとする。
  - 4 介護休業開始予定日の前日までに、申出に係る家族の死亡等により申出者が家族を介護しないこととなった場合には、介護休業の申出はされなかったものとみなす。この場合において、申出者は、原則として当該事由が発生した日に、会社にその旨を通知しなければならない。

### (介護休業の期間等)

- 第 9 条 介護休業の期間は、対象家族 1 人につき、原則として、通算 93 日間の範囲（介護休業開始予定日から起算して 93 日を経過する日までをいう。）内で、介護休業申出書に記載された期間とする。

ただし、同一家族について、異なる要介護状態について介護休業をしたことがある場合又は第 16 条に規定する介護短時間勤務の適用を受けた場合は、

その日数も通算して 93 日間までを原則とする。

- 2 前項にかかわらず、会社は、育児・介護休業法の定めるところにより介護休業開始予定日の指定を行うことができる。
- 3 派遣従業員は、介護休業期間変更申出書により、介護休業を終了しようとする日（以下「介護休業終了予定日」という。）の 2 週間前までに会社に申し出るにより、介護休業終了予定日の繰下げ変更を行うことができる。  
この場合において、介護休業開始予定日から変更後の介護休業終了予定日までの期間は通算 93 日（異なる要介護状態について介護休業をしたことがある場合又は第 16 条に規定する介護短時間勤務の適用を受けた場合は、93 日からその日数を控除した日数）の範囲を超えないことを原則とする。
- 4 介護休業期間変更申出書が提出されたときは、会社は速やかに当該介護休業期間変更申出書を提出した者に対し、介護休業取扱通知書を交付する。
- 5 次の各号に掲げるいずれかの事由が生じた場合には、介護休業は終了するものとし、当該介護休業の終了日は当該各号に掲げる日とする。
  - ① 家族の死亡等介護休業に係る家族を介護しないこととなった場合
    - ・・・当該事由が発生した日（なお、この場合において本人が出勤する日は、事由発生の日から 2 週間以内であって、会社と本人が話し合いの上決定した日とする。）
  - ② 申出者について、産前産後休業、育児休業又は新たな介護休業が始まった場合
    - ・・・産前産後休業、育児休業又は新たな介護休業の開始日の前日
- 6 前項①の事由が生じた場合には、申出者は原則として当該事由が生じた日に会社にその旨を通知しなければならない。

## 第 4 章 子の看護休暇

### （子の看護休暇）

第 10 条 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する派遣従業員（日雇従業員を除く）は、負傷し、又は疾病にかかった当該子の世話をするために、又は当該子に予防接種や健康診断を受けさせるために、就業規則第 20 条に規定する年次有給休暇とは別に、当該子が 1 人の場合は 1 年間につき 5 日、2 人以上の場合は 1 年間につき 10 日を限度として、子の看護休暇を取得することができる。この場合の 1 年間とは、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間とする。ただし、労使協定によって除外された次の派遣従業員からの子の看護休暇の申出は拒むことができる。

- ① 入社 6 か月未満の派遣従業員
  - ② 1 週間の所定労働日数が 2 日以下の派遣従業員
- 2 子の看護休暇は、時間単位で取得することができる。
  - 3 取得しようとする者は、原則として、事前に会社に申し出るものとする。
  - 4 賃金、賞与、定期昇給及び退職金の算定に当たっては、取得期間は通常の勤務をしたものとみなす。

## 第 5 章 介護休暇

### (介護休暇)

第 11 条 要介護状態にある家族の介護その他の世話をする派遣従業員（日雇従業員を除く）は、就業規則第 20 条に規定する年次有給休暇とは別に、当該対象家族が 1 人の場合は 1 年間につき 5 日、2 人以上の場合は 1 年間につき 10 日を限度として、介護休暇を取得することができる。この場合の 1 年間とは、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間とする。ただし、労使協定によって除外された次の派遣従業員からの介護休暇の申出は拒むことができる。

- ①入社 6 か月未満の派遣従業員
  - ②1 週間の所定労働日数が 2 日以下の派遣従業員
- 2 介護休暇は、時間単位で取得することができる。
  - 3 取得しようとする者は、原則として、事前に会社に申し出るものとする。
  - 4 賃金、賞与、定期昇給及び退職金の算定に当たっては、取得期間は通常の勤務をしたものとみなす。

## 第 6 章 所定外労働の免除

### (育児のための所定外労働の免除)

第 12 条 3 歳に満たない子を養育する派遣従業員（日雇従業員を除く）が当該子を養育するために申し出た場合には、事業の正常な運営に支障がある場合を除き、所定労働時間を超えて労働をさせることはない。

- 2 前項にかかわらず、労使協定によって除外された次の派遣従業員からの所定外労働の免除の申出は拒むことができる。
  - ①入社 1 年未満の派遣従業員
  - ② 1 週間の所定労働日数が 2 日以下の派遣従業員
- 3 申出をしようとする者は、1 回につき、1 か月以上 1 年以内の期間（以下この条において「免除期間」という。）について、免除を開始しようとする日（以下この条において「免除開始予定日」という。）及び免除を終了しようとする日を明らかにして、原則として、免除開始予定日の 1 か月前までに、育児の



ための所定外労働免除申出書を会社に提出するものとする。この場合において、免除期間は、次条第 3 項に規定する制限期間と重複しないようにしなければならない。

- 4 会社は、所定外労働免除申出書を受け取るにあたり、必要最小限度の各種証明書の提出を求めることがある。
- 5 申出の日後に申出に係る子が出生したときは、所定外労働免除申出書を提出した者（以下この条において「申出者」という。）は、出生後 2 週間以内に会社に所定外労働免除対象児出生届を提出しなければならない。
- 6 免除開始予定日の前日までに、申出に係る子の死亡等により申出者が子を養育しないこととなった場合には、申出されなかったものとみなす。この場合において、申出者は、原則として当該事由が発生した日に、会社にその旨を通知しなければならない。
- 7 次の各号に掲げるいずれかの事由が生じた場合には、免除期間は終了するものとし、当該免除期間の終了日は当該各号に掲げる日とする。
  - ①子の死亡等免除に係る子を養育しないこととなった場合  
・・・ 当該事由が発生した日
  - ②免除に係る子が 3 歳に達した場合  
・・・ 当該 3 歳に達した日
  - ③申出者について、産前産後休業、育児休業又は介護休業が始まった場合  
・・・ 産前産後休業、育児休業又は介護休業の開始日の前日
- 8 前項①の事由が生じた場合には、申出者は原則として当該事由が生じた日に、会社にその旨を通知しなければならない。

## 第 7 章 時間外労働の制限

### （育児・介護のための時間外労働の制限）

第 13 条 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する派遣従業員が当該子を養育するため又は要介護状態にある家族を介護する派遣従業員が当該家族を介護するために申し出た場合には、就業規則第 19 条の規定及び時間外労働に関する協定にかかわらず、事業の正常な運営に支障がある場合を除き、1 か月について 24 時間、1 年について 150 時間を超えて時間外労働をさせることはない。

- 2 前項にかかわらず、次の①から③のいずれかに該当する派遣従業員からの時間外労働の制限の申出は拒むことができる。
  - ①日雇従業員
  - ②入社 1 年未満の派遣従業員

③1週間の所定労働日数が2日以下の派遣従業員

- 3 申出をしようとする者は、1回につき、1か月以上1年以内の期間（以下この条において「制限期間」という。）について、制限を開始しようとする日（以下この条において「制限開始予定日」という。）及び制限を終了しようとする日を明らかにして、原則として、制限開始予定日の1か月前までに、育児・介護のための時間外労働制限申出書を会社に提出するものとする。この場合において、制限期間は、前条第2項に規定する免除期間と重複しないようにしなければならない。
- 4 会社は、時間外労働制限申出書を受け取るにあたり、必要最小限度の各種証明書の提出を求められることがある。
- 5 申出の日後に申出に係る子が出生したときは、時間外労働制限申出書を提出した者（以下この条において「申出者」という。）は、出生後2週間以内に会社に時間外労働制限対象児出生届を提出しなければならない。
- 6 制限開始予定日の前日までに、申出に係る家族の死亡等により申出者が子を養育又は家族を介護しないこととなった場合には、申出されなかったものとみなす。この場合において、申出者は、原則として当該事由が発生した日に、会社にその旨を通知しなければならない。
- 7 次の各号に掲げるいずれかの事由が生じた場合には、制限期間は終了するものとし、当該制限期間の終了日は当該各号に掲げる日とする。
  - ①家族の死亡等制限に係る子を養育又は家族を介護しないこととなった場合
    - ・・・当該事由が発生した日
  - ②制限に係る子が小学校就学の始期に達した場合
    - ・・・子が6歳に達する日の属する年度の3月31日
  - ③申出者について、産前産後休業、育児休業又は介護休業が始まった場合
    - ・・・産前産後休業、育児休業又は介護休業の開始日の前日
- 8 前項①の事由が生じた場合には、申出者は原則として当該事由が生じた日に、会社にその旨を通知しなければならない。

## 第8章 深夜業の制限

### （育児・介護のための深夜業の制限）

第14条 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する派遣従業員が当該子を養育するため又は要介護状態にある家族を介護する派遣従業員が当該家族を介護するために申し出た場合には、就業規則第19条の規定にかかわらず、事業の正常な運営に支障がある場合を除き、午後10時から午前5時までの間（以

下、

「深夜」という。)に労働させることはない。

- 2 前項にかかわらず、次のいずれかに該当する派遣従業員からの深夜業の制限の申出は拒むことができる。
  - ①日雇従業員
  - ②入社1年未満の派遣従業員
  - ③申出に係る家族の16歳以上の同居の家族が次のいずれにも該当する従業員
    - イ 深夜において就業していない者（1か月について深夜における就業が3日以下の者を含む）であること
    - ロ 心身の状態が申出に係る子の保育又は家族の介護をすることができる者であること
    - ハ 6週間(多胎妊娠の場合にあつては、14週間)以内に出産予定でなく、または産後8週間以内でない者であること
  - ④1週間の所定労働日数が2日以下の派遣従業員
  - ⑤所定労働時間の全部が深夜にある派遣従業員
- 3 申出をしようとする者は、1回につき、1か月以上6か月以内の期間（以下この条において「制限期間」という。）について、制限を開始しようとする日（以下この条において「制限開始予定日」という。）及び制限を終了しようとする日を明らかにして、原則として、制限開始予定日の1か月前までに、育児・介護のための深夜業制限申出書を会社に提出するものとする。
- 4 会社は、深夜業制限申出書を受け取るにあたり、必要最小限度の各種証明書の提出を求めることがある。
- 5 申出の日後に申出に係る子が出生したときは、深夜業制限申出書を提出した者（以下この条において「申出者」という。）は、出生後2週間以内に会社に深夜業制限対象児出生届を提出しなければならない。
- 6 制限開始予定日の前日までに、申出に係る家族の死亡等により申出者が子を養育又は家族を介護しないこととなった場合には、申出されなかったものとみなす。この場合において、申出者は、原則として当該事由が発生した日に、会社にその旨を通知しなければならない。
- 7 次の各号に掲げるいずれかの事由が生じた場合には、制限期間は終了するものとし、当該制限期間の終了日は当該各号に掲げる日とする。
  - ①家族の死亡等制限に係る子を養育又は家族を介護しないこととなった場合
    - ・・・当該事由が発生した日
  - ②制限に係る子が小学校就学の始期に達した場合

- ・・・子が6歳に達する日の属する年度の3月31日
- ③申出者について、産前産後休業、育児休業又は介護休業が始まった場合
  - ・・・産前産後休業、育児休業又は介護休業の開始日の前日
- 8 前項①の事由が生じた場合には、申出者は原則として当該事由が生じた日に、会社にその旨を通知しなければならない。
- 9 制限期間中の賃金については、別途定める賃金規程に基づく基本給を時間換算した額を基礎とした実労働時間分の基本給と諸手当の全額を支給する。
- 10 深夜業の制限を受ける派遣従業員に対して、会社は必要に応じて昼間勤務へ転換させることがある。

## 第9章 所定労働時間の短縮措置等

### (育児短時間勤務)

- 第15条 3歳に満たない子を養育する派遣従業員は、申し出ることにより、1日の所定労働時間について、以下のように変更することができる。
- 所定労働時間を午前9時から午後4時まで（うち休憩時間は、午前12時から午後1時までの1時間とする。）の6時間とする（1歳に満たない子を育てる女性派遣従業員は更に別途30分ずつ2回の育児時間を請求することができる。）。
- 2 前項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当する派遣従業員からの育児短時間勤務の申出は拒むことができる。
    - ①日雇従業員
    - ②1日の所定労働時間が6時間以下である派遣従業員
    - ③労使協定によって除外された次の派遣従業員
      - イ 入社1年未満の派遣従業員
      - ロ 1週間の所定労働日数が2日以下の派遣従業員
      - ハ 業務の性質又は業務の実施体制に照らして所定労働時間の短縮措置を講ずることが困難と認められる業務として別に定める業務に従事する派遣従業員
  - 3 申出をしようとする者は、1回につき、1か月以上1年以内の期間について、短縮を開始しようとする日及び短縮を終了しようとする日を明らかにして、原則として、短縮開始予定日の1か月前までに、育児短時間勤務申出書により会社に申し出なければならない。申出書が提出されたときは、会社は速やかに申出者に対し、育児短時間勤務取扱通知書を交付する。その他適用のための手続等については、第3条から第5条までの規定（第3条第2項及び第4条第3項を除く。）を準用する。

- 4 本制度の適用を受ける間の賃金については、別途定める賃金規定に基づく基本給を時間換算した額を基礎とした実労働時間分の基本給と諸手当の全額を支給する。

### **(介護短時間勤務)**

第16条 要介護状態にある家族を介護する派遣従業員は、申し出ることにより、対象家族1人あたり通算93日間の範囲内を原則として、1日の所定労働時間について、以下のように変更することができる。

所定労働時間を午前9時から午後4時まで（うち休憩時間は、午前12時から午後1時までの1時間とする。）の6時間とする。ただし、同一家族について既に介護休業をした場合又は異なる要介護状態について介護短時間勤務の適用を受けた場合は、その日数も通算して93日間までを原則とする。

- 2 前項の定めにかかわらず、日雇従業員からの介護短時間勤務の申出は拒むことができる。
- 3 申出をしようとする者は、1回につき、93日（介護休業をした場合又は異なる要介護状態について介護短時間勤務の適用を受けた場合は、93日からその日数を控除した日数）以内の期間について、短縮を開始しようとする日及び短縮を終了しようとする日を明らかにして、原則として、短縮開始予定日の2週間前までに、介護短時間勤務申出書により会社に申し出なければならない。申出書が提出されたときは、会社は速やかに申出者に対し、介護短時間勤務取扱通知書を交付する。その他適用のための手続等については、第7条から第9条までの規定を準用する。
- 4 本制度の適用を受ける間の賃金については、別途定める賃金規定に基づく基本給を時間換算した額を基礎とした実労働時間分の基本給と諸手当の全額を支給する。

## **第10章 その他の事項**

### **(賃金等の取扱い)**

第17条 育児・介護休業の期間については、基本給その他の月毎に支払われる賃金は支給しない。

### **(介護休業期間中の社会保険料の取扱い)**

第18条 介護休業により賃金が支払われない月における社会保険料の被保険者負担分は、各月に会社が納付した額を翌月10日までに派遣従業員に請求するものとし、派遣従業員は会社が指定する日までに支払うものとする。

### **(復職後の勤務)**

第 19 条 育児・介護休業後の勤務は、原則として、休業直前の部署及び職務とする。

2 前項の規定にかかわらず、本人の希望がある場合及び組織の変更等やむを得ない事情がある場合には、部署及び職務の変更を行うことがある。この場合は、育児休業終了予定日の 1 か月前又は介護休業終了予定日の 2 週間前までに正式に決定し通知する。

### **(年次有給休暇)**

第 20 条 年次有給休暇の権利発生のための出勤率の算定にあたっては、育児・介護休業をした日並びに子の看護休暇及び介護休暇を取得した日は出勤したものとみなす。

### **(法令との関係)**

第 21 条 育児・介護休業、子の看護休暇、介護休暇、育児のための所定外労働の免除、育児・介護のための時間外労働及び深夜業の制限並びに所定労働時間の短縮措置等に関して、この規則に定めのないことについては、育児・介護休業法その他の法令の定めるところによる。

### **(育児・介護休業取得等に関する相談・苦情)**

第 22 条 育児・介護休業の取得に伴う苦情・紛争の解決のため、会社は総務部内に相談員を常駐させ、加えて社内に「苦情紛争処理委員会」を設置する。構成メンバーなどは、労使協議の上決める。

### **(附 則)**

本規則は、平成 23 年 11 月 1 日から適用する。